

を問う



大森 英一

まちづくり委員会の位置づけは 住民の提言として受けとめる

大森 公民館の予算が減らされ、地域活動に支障が出てきている。まちづくり委員会と同じ目的を

点を整理するパートナーになっていただく。

実践中の組織として公民館活動に支障があつてはならない。こうした懸念の中、まちづくり委員会が始動したが、その目的に「住民と行政のパートナーシップの育成」とある。パートナーシップに

大森 委員会の目標として「伯耆町総合計画」策定時に意見提出をするところがあるが、すでにできあがっている「まちづくり計画」や、今年のとりにくみとして集落単位で求めた五ヶ年計画などに加え、委員会の意見を合わせる

町長 委員により協議した内容を、二十九名のまちづくり委員会には住民窓口としての意見を聞く事をもとより、行政について理解を深めていただく。そして、住民視点による合併後の課題や問題

町長 まちづくり委員会の協議結果は総合計画策定へ提言とし、広く町民に公表し、今後の議論提供としたい。

町民とのパートナーシップについて

大森 かねてよりの私の持論として、これまでの行政手法では財政が行きづまるため、思い切った手法が必要である。私の目には、町民の皆様がまんをして下さいとお願いばかりで行政自らの具体的な行動がないように思える。「協働のまちづくり」への理解を得るため、先ず町民の皆様のパートナーとして信頼される必要がある。それには職員全員がやる気を示すことが有効と考える。職員全員による一年間一人

浮き彫りになってきた。ご指摘のとおり「協働のまちづくり」を住民の皆様

及び、課長補佐の課長になる前の仕上げの場としてはどうか。

一件以上の改善提案の義務付けと、提案を活かすしくみが直ちに必要と考えるが、町長の所見を伺う。

大森 公共施設の活用について四公民館、文化センターを「協働のまちづくり」の拠点とし、町民と行政の信頼関係づくりの場

町長 伯耆町が発足して約半年が経過し、課題が



第4回まちづくり委員会